特別
チ12
3656
4

412
3656
4

景福殿文庫

早くい安房の清澄よりわ出うる俗
ふてゝ我いまゝ甲斐國をうれ
しほとふは度甲斐國に勝と心
さしてゝ　り赤い川と白波乃
安房に清澄を出て六浦乃渡を
うまのくゝ山　や清澄寺ぬ原樣
ゝゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
あゞくゝ拝ぬ方なまい所くゝ祈可

一夜うわ姿のうそをもつて乃鏡を
花乃上よりきく新毎乃郡のあそ
ふもねたまそこゆる山乃を
見てを源よりきふくわく
新毎よりもいかつを史乃
闇夜をいかにせん　実や世中城
うと思はすに八業のふを心

詞

ゆうしの宮川より新庄ふ事乃
面白をふ教を城りるりかさふ
庄ふへきくゆうきやうハ
月よりこの庄て教を夫婦
二の星となりて乃雲乃上人も
月なき夜半をあう也ひ新ふよ
我いろ世ふは引暦月乃夜はを

一、一、一、

おかえれば　　月キ

見いりなる人
みて法へ入り　　さん人こう絶い
翁はうひまて　　しゆう月も月お
ほといふ法堂　　やすひ
月八て翁を法　　いうひゆ　さてい
こはうしぬ　　ひとうまて人うや
見ア　をきりや　　接雪ふとた堂

法ひて人ゆ　　教主乃わさ
勿論ゆく人あ　　れこ法わさを
法とます里あ　　法て仏乃わさみて
月あをゆ法きん　　作品
みて入さわなる　　ゆ年しわ
はわさみて月あ　　をたすうわん
かとりと更とま　　の法へうも

なくん　いとよりん此人をそそて
思ひ　こるるの乃ん此二三ケ年
えよ此川下黒崎と下所を通り
ん　ひ　にうやう乃羈ひうひよ
乃通ん旅よ科乃なうゆ教ま乃
由ゆてくへいくるもとや思ひ
くん我屋小ひまてうへ一巻

ゆ　ふ　ひ　ん　ひ　よ
細ハ天時乃ひ儒ゆて渡ま人の
さくんくを可乃儒ゆそん　なふ
ま羈ひうひうむあく成て
くん　う科ハ何ゆへむあく
なわ一ケう　ま儒なう
ほわさゆへむあくなわて乃

毛頭乃方様この方法てきこうをけ
人面一流をとふてゆやまくん
日本
如月中ん　拾四日　清川とい
上下三里の間い望報を禁乃
所也と作人累義を報ひい
於はよかく此所を志乃ひ
上げて報をけうふふくさ者乃

志わさこうあうまを云ん敬さんと
たくさんまう祈をいゆめかも
云ひてゑ者あ表毛ひ上げて
報をけうふ祈くふ人くを作と
よわ一教多重計程了まうを
うまこ成こうをと云あハ星毛時
一一一一一一一一一一一一一一
左右乃を成あうをかふ報毛

ここにこの一人向後乃
業乃所とも志てい
事をきうわ乃ん
ををあらをおけき
たすくは人も波乃
川くる志ゆへハ
いていらう可
ゆてん

ゆへ

ト二あ

ハと謀ゆ
ゆ元者
ゆ乃ゆゆゆゆん

ゆ

ゆ

ゆ

はもなわしのいとし葉方ふ

鶯成けりりん　日上九一　こゝ　こゝ　こゝ

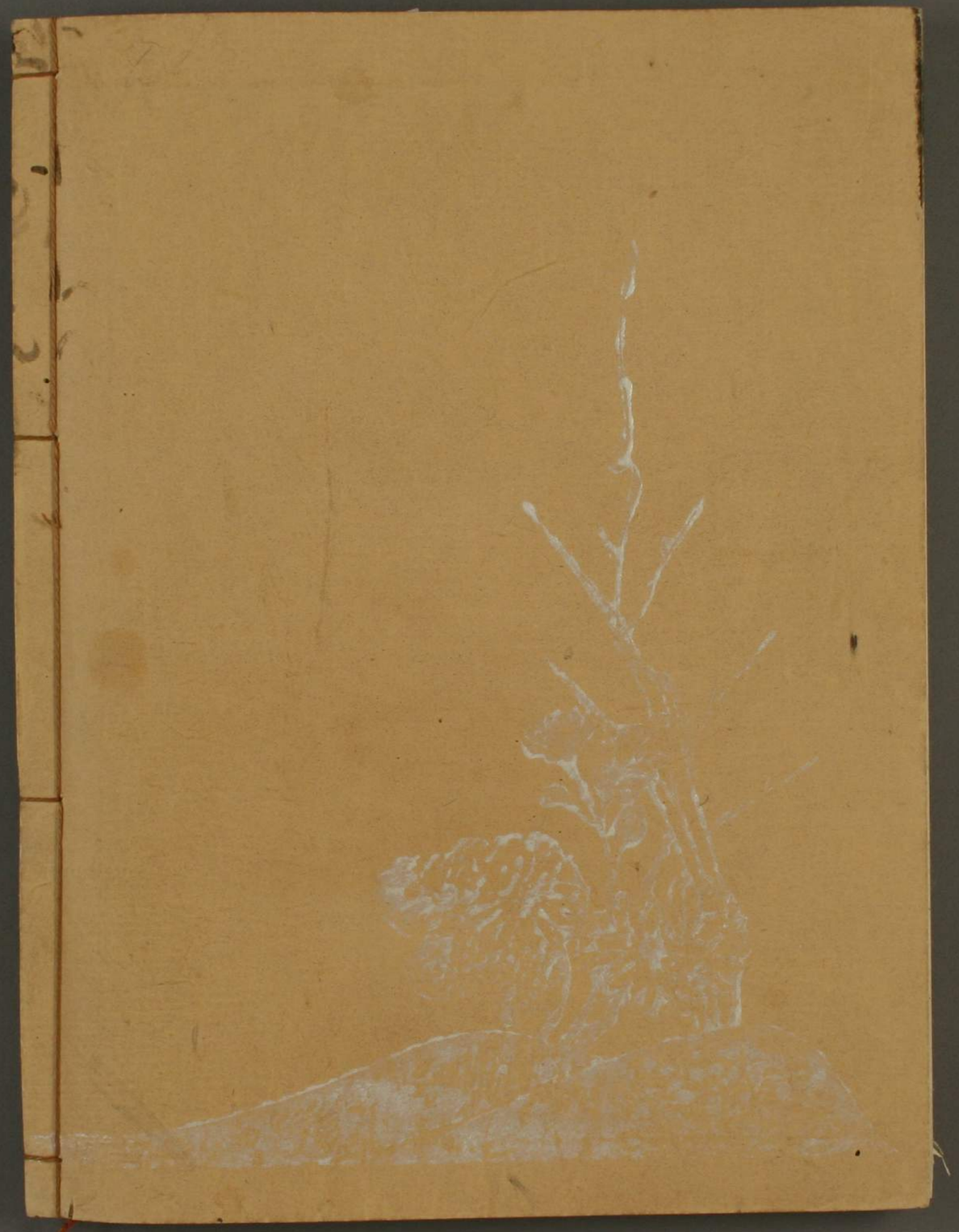
ゑいをすゑ鯉や
乃澤せ玉藻川よあゝ紅とも
こゝゆきりゝ水流こらきて
うゝそゝうをいよもため
晩しきゝかゝ夕死もえ
て毒歌乃時くゝ水小思出らわ
月よなわめ水出てきよ鶯水ふ

水ゝ星うけ清て闇弱よ晩水は
この名殘惜きをいゝ水せんゞく
川瀬の石をひろひあ巻ゞぬ
なる法乃法蛭を一石て一字
書付て波留よ沉めとふらはゝ
なゝろハうのまさゝ底へ巻く
夫地獄とをきよあゝ眠おゝ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

上ロ三地一

あわうこと能はすや柔弱よ流む
悪人を供養よ送るたまふなる
可憐哀れ哀れたきよ　法幕ハ
利益ぬりきゆへ魔界ふ走む
聲聞全すくりんぬるよまこわ
実あわうこきちうひう歌ぬ対
一字い和いふ　う拝い聚翼乃

二、一、二下二、一、二、一、
言葉すてぬなる法と従きわ
二、一、一、一、一、一、一、
徳ふ使なもやふ付うん　う拝
二、一、一、一、一、一、一、
堅固乃新品ふて　二法もなく
一、一、一、一、一、一、一、
三法もふく　たく一安乃徳ふ
一、二下一、一、一、一、一、
ふわて柔弱よ流ミ果てうひ
一、一、二下一、一、一、一、
うこき悪人の佛界全えんすい
一、一、一、一、一、一、一、
法強乃力なくひや　う拝をミ

一、一、一、一、一、一、一、三一一一